

「海外や海外からの観光客が訪ねてくるゲストハウスを作りたい」と伊藤さんの夢は広がる。



窓の向こうにはのんびりとした山の風景。窓枠が季節代わりになって、四季折々の景色を切り取ってくれる。



悩むより、行動！
それができる町



伊藤めぐみさん

『カフェ モルモル』
オーナー兼
プロダクトデザイナー

「15歳の頃に飛び出した田舎をこんなにも好きになれたのは、温かく迎え入れてくれたこの町があったから」。穏やかな笑顔でそう話すのは、庄原市で「カフェ モルモル」を営む西城町出身の伊藤さん。とにかく都会に出たかったと高校入学を機に祖母が暮らす大阪へ。関西の高校、大学を経て、木エディンを学ぶためスウェーデンの大学院へ留学。卒業後もスウェーデンに残りアーティストとしての活動を続けていた。2013年、28歳のときに帰国し、生活拠点を整えるために一旦、故郷の庄原市へ。伊藤さんが留学中に住んでいた場所は田舎町。「13年ぶりに戻った故郷の景色は、スウェーデンの田園風景とリンクするものがありました。何もないからと一度はクライになった庄原を好きになり始めてたんですね。自然に囲まれてのんびりと暮らし、田舎から発信するのもアリかなと思います」。プロダクトデザイナーとしての活動を続けながら、いろんな人が集まれ



自家製シフォンケーキと一杯一杯丁寧に淹れるコーヒーが看板メニュー。週末はランチも提供。

る場所を作ろうとカフェをオープン。「庄原は、とりあえずやってみよう！が叶う町だと思っています。空き家物件も多いですし、家賃も安い。飲食店をするなら競合店もなく、美味しい野菜もたくさんあります。何より、新しいものを受け入れてくれる地域の人々の温かさがありません」と伊藤さん。庄原市の魅力は豊かな自然と人の温かさ。県外や海外での暮らしを経験したからこそ、気づくことができたふたつの宝物。伊藤さんはきっと、もっとこの町を好きになっっていくのだろう。

伊藤さんがデザインしてデンマークで商品化したウォールクリップ。北欧のマーケットで販売中



大学時代の専攻が空間デザインだった伊藤さん。外観や店内は、大工として働く地元の同級生とタッグを組んで作った。



ほっこり♡
お金では買えない「ありがとう」
都会では購入していたものが、着意で置くのも田舎ならではの、野菜や創作活動に必要な木材が届けられ、心からの「ありがとう」が飛び交う。